

平成19年度「専修学校教育重点支援プラン」成果報告書

| | | | |
|-----|--|------------|--------------------------|
| 事業名 | 生徒による市民向けパソコン講座を通じた地域貢献と奉仕の心を持つ職業人育成プログラムの研究開発 | | |
| 法人名 | 学校法人細谷学園 | | |
| 学校名 | 細谷高等専修学校 | | |
| 代表者 | 理事長 細谷 貢 | 担当者 連絡先 | 細谷祥之 TEL 0296-22-2733 |

1. 事業の概要

高等専修学校生が、卒業後に正社員として就職し、その後の早期離職を防ぐ事を目的とした教育プログラムを研究・開発した。高等専修学校卒業後、早期離職の原因について、コミュニケーション能力をはじめとした職業人として身につけるべき基本的スキル不足である場合も多い。そこで、高等専修学校生が社会人基礎力を身につける為の教育プログラムを開発し、最終的には「市民向けパソコン講座」をはじめとした地域住民と触れ合う機会を生徒に提供することにより、生徒の職業人スキルを涵養し、地域貢献と奉仕の心を持った生徒を育成するための教育プログラム研究・開発事業を実施した。教育プログラムの研究・開発については、「実施委員会(5回)」、「奉仕の心育成分科会(4回)」、「パソコン教育分科会(4回)」、「評価分科会(4回)」を開催し、それぞれの分野ごとに研究・開発を行った。また、それぞれの教育プログラムに関して実証講座を実施し、その結果を随時、各委員会・分科会にフィードバックすることにより、教育プログラムが高等専修学校生にとって、より教育効果の高いものとなるよう留意して研究・開発を進めた。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

奉仕の心育成に関しては、特に道德教育、マナー教育と関連させ、実生活に関連した分かりやすい事例を数多く用いた形で効果的に指導出来た。

職業人の常識育成に関しては、社会人として求められるビジネスマナー全般について、市民向けパソコン講座等の実戦を通して各人が身につけることが出来た。

パソコンスキルの育成に関しては、当初、個人のスキルに大きな差があったが、補助講師や職員が生徒に応じた形でフォローしていく事により、全体の中で比較的上位の者に合わせた授業でも全員が遅れずについていくことが出来た。早期離職を防ぐという目的に対する結果についてはこれからだが、就職に関しては、ここ数年では初めて3年生全員が正社員として地元企業に就職することが出来た。

②事業により得られた成果

奉仕の心育成カリキュラム

●奉仕の心をテーマとした講演を繰り返し行うことにより、奉仕の心について様々な角度から各人が深く考えることが出来、そのための講演内容等に関するプログラムを開発出来た。

●奉仕の心育成について、道徳性検査等を利用することにより、道德教育・マナー教育等と関連させ、生徒それぞれのレベルに応じて分かりやすく指導する為の教育プログラムについて開発・実施出来た。

●高齢者の方と上手にコミュニケーションを取る為のコツのようなものを指導する為、老人ホーム訪問、その為の事前指導等を通じた教育プログラムについて開発・実施出来た。

●プログラム実施の成果として、大半の生徒が必要を実感し、態度や礼儀が改まったと思われる。

職業人の常識育成カリキュラム

●社会人として必要と思われるビジネスマナー全般について、学生時代に身につける為の教育プログラムを開発・実施出来た。また、卒業後正社員として継続して働いていく為の教育プログラムについて開発・実施出来た。

パソコンインストラクター育成・パソコンスキル育成カリキュラム

- パソコンを他人に教えるという観点からパソコン操作を学ぶことにより、教えることの難しさ、コミュニケーションの大切さ・楽しさ・奥深さ等について指導する為の教育プログラムについて開発・実施出来た。
- 生徒全員のパソコン操作についてのスキルアップが図れ、その為の教育プログラムについて開発・実証出来た。
- 希望者(5名)が、就職の際に履歴書に記載すると有効と思われる検定試験(Microsoft Office Specialist Word2003)に係る学習を行い、全員が受験し全員が資格取得することが出来た。その為の教育プログラムについて開発・実証出来た。
- 職員がパソコンを指導するという立場で研修を行うことにより、学校職員全体のパソコンスキルの向上を図ることが出来た。

その他

- 「市民向けパソコン講座」、「出前型パソコン講座」を通じた学習を繰り返し行うことにより、実践的に社会人基礎力(ビジネスマナー・コミュニケーション能力・奉仕の心・パソコンインストラクションスキル・パソコンスキル)を涵養することが出来た。その為の教育プログラムについて開発・実証することが出来た。
- 「市民向けパソコン講座」、「出前型パソコン講座」という形式でパソコン講座を繰り返し開催することにより、ひとつの目的がある程度完成した後のさらなる改善の大切さと、物事を繰り返し行っていく事によるスキルの向上及び完成度を上げていく事の大切さを学ばせる事が出来た。また、それが可能である事を体験させ各人に実感させる事が出来た。また、市民の方々を中心とした受講者のスキルアップや感謝の言葉を受け、他人に喜んでもらえる事の喜びについて体験・実感させる事が出来、どんな職業でも人々の役に立っていること、誰でも職業を通じて社会に奉仕しているという事を学べた。それらの教育プログラムについて開発・実証出来た。
- 各教育プログラム毎に感想文、反省文を繰り返し書かせることにより、物事を言葉で表現し相手に伝える基礎力を着実に涵養する事が出来た。
- 地域社会、学校、生徒の三者が、教育プログラムの効果を享受出来た。
- 各教育プログラムを通じて、高等専修学校としてあるべき教育の姿、社会から必要とされる人間づくり、企業から受け入れられる人間づくりの指導方策の開発に大変役立った。

③今後の活用

- 職業人の常識育成カリキュラムで作成・使用したテキスト及び教育プログラムに関しては、新入生に対し社会人基礎力に係る授業の中で活用していく。
- 道徳性検査を基にした奉仕の心育成カリキュラムに関しては、新入生に対し道徳教育に係る授業の中で活用していく。
- 市民向けパソコン講座関係で作成・使用したテキストに関しては、新入生に対しパソコンに係る授業の中で活用していく。また、専修学校で行う生涯学習講座のテキストとしても活用していく。
- 検定試験(Microsoft Office Specialist Word2003)に係るカリキュラムに関しては、次年度以降入学生の資格取得希望者に対し活用していく。

④次年度以降における課題・展開

- 奉仕の心育成カリキュラムに関しては、生徒の特性が1年毎に変化する為、補足的な部分でその時の生徒の資質・能力に応じた教材等を利用し、道徳観念の更なる涵養を図る。
- 職業人の常識育成カリキュラムに関しては、生徒の特性の変化、社会情勢の変化に応じて重点事項の変更をしていく。
- パソコンインストラクター育成カリキュラム、パソコンスキル育成カリキュラムに関しては、OS、アプリケーションソフトのバージョンアップに伴い多少の変更箇所は生じてくるが、大まかには今回のカリキュラムをそのまま活用できると思われる。

3. 事業の実施に関する項目

①カリキュラムの開発

高等専修学校生を対象とした下記のテーマに係る教育プログラムについて、合計17回の委員会・分科会及び細谷高等専修学校生への実証講座を基に研究・開発を行った。実証講座の視察を含め、実証講座での問題点等を随時各委員会・分科会へフィードバックすることにより、高等専修学校生に対しより教育効果の高いカリキュラムになるよう留意して研究・開発を進めた。

- ・奉仕の心育成カリキュラム
- ・職業人の常識育成カリキュラム
- ・パソコンインストラクター育成カリキュラム
- ・パソコンスキル育成カリキュラム

②実証講座

テーマ・・・奉仕の心育成プログラム

期間・・・平成19年9月11日～平成20年2月18日

受講者の属性・受講者数・・・学校法人細谷学園女子生徒(高等専修学校1年生～3年生)24名

場所・・・学校法人細谷学園 各教室

テーマ・・・職業人の常識育成プログラム

期間・・・平成19年9月4日～平成20年1月29日

受講者の属性・受講者数・・・学校法人細谷学園女子生徒(高等専修学校1年生～3年生)24名

場所・・・学校法人細谷学園 各教室

受講者の反応・・・取り組む姿勢、理解度、習熟度など生徒の自己評価(延べ人数)

よくできた(38名) まあまあできた(73名) あまりよくできなかった(19名) 全然できなかった(3名)

※自己評価の項目など、詳細は実績報告書を参照

テーマ・・・パソコンインストラクター・パソコンスキル育成プログラム

期間・・・平成19年8月29日～平成20年2月25日

受講者の属性・受講者数・・・学校法人細谷学園女子生徒(高等専修学校1年生～3年生)24名

学校法人細谷学園職員5名

場所・・・学校法人細谷学園 各教室

受講者の反応・・・取り組む姿勢、理解度、習熟度など各項目ごとの生徒自己評価(延べ人数)

よくできた(63名) まあまあできた(92名) あまりよくできなかった(22名) 全然できなかった(4名)

※自己評価の項目など、詳細は実績報告書を参照

テーマ・・・生徒による市民向けパソコン講座プログラム

期間・・・本番の日付:平成19年11月21日、11月27日、12月6日、12月12日

受講者の属性・受講者数・・・講師役:学校法人細谷学園女子生徒(高等専修学校1年生～3年生)24名

生徒役:市内及び市内近郊の方でパソコン初心者(20代後半～70代位)47名

場所・・・学校法人細谷学園

講師役となった本校生の反応(感想文より)

生徒の感想文の内容は、パソコンスキル・インストラクションスキルに関するもの他、コミュニケーションの大切さ、難しさなどに言及しているものが多かった。たとえパソコンの講座でも、社会生活では人と人とのコミュニケーションが欠かせない大切なものであることを各人が実践を通して学べたようだ。

生徒役の市民の方々等の反応・・・講座終了後のアンケート調査(任意)の集計結果(延べ人数)

とても良かった(81名) 良かった(17名) あまり良くなかった(0名) 悪かった(0名)

※アンケート内容の詳細は実績報告書を参照

③その他

生徒の元々の能力・資質・スキル等に大きな個人差があるため、それに対応する方策(カリキュラムの内容・スケジュール、指導方法、指導体制等)について、教育プログラム毎に工夫を要した。